

## (6)実施した起業教育への一般的・社会的評価について

(生徒・受講者等からの評価も含む)

5年生、6年生が対象であるが、5年生で参加した子ども達のほぼ100%が6年生でも参加するリピート率がある。また、学校の卒業文集でもジュニエコが一番楽しかったと書くぐらい子ども達の満足度の高いカリキュラム・イベントであると言える。

学校での認知度は、募集のために学校訪問をした際に1回目では「物売りがきた」、「子どもにお金を扱わせるのはまかり成らん」といった態度から、現在では事業の説明の必要がなく、学校で出来ない教育の一つとして認知され、学校を挙げて参加していただける学校も出てきている。

他の地域では、本ジュニエコをモデルとして、昨年度からは長野県須坂市の須坂商工会議所青年部が開催し、来年度は岡崎商工会議所青年部で開催予定と全国の民間主導型教育のモデルとなっている。また、起業教育の事例発表を昨年だけで3件行ったほか、東北経済産業局、四国経済産業局、商業高校、京都教育大学から内容の取材があるなど、民間主導型起業教育の実践事例では、リーダー的な立場の評価をいただき、多くの視察を受けている。



## (6)ジュニアエコノミーカレッジにかける思い

今の子ども達は、社会と関る力が非常に落ちてきている。これは、少子高齢化や地方の過疎化などが進むにつれて、さらに落ちてくると思われる。学力低下が言われているが、まだまだ高い学力を有している日本国においては、その学力(知力)を活かす能力の育成が必要であると考えられる。知力が高いとは、答えがある課題に対して解決する能力を持っていることである。しかし、社会では必ずしも答えがあるわけでもなく、また一つとも限らない中において、知力を活かす能力とは、考える力と言える。起業家をロールモデルとしてコンピテンシーを明らかにしていくと、論理的思考・概念的思考が高いことが分かっている。また、その力を発揮し他社への影響を發揮するために、社会との関る力を必要とされ、起業家のリーダーシップや自己理解、他者理解等の能力から明らかにできる。この能力も今日本に求められている能力である。

この能力を育成する起業教育を学校教育だけで行うのではなく、地域の商工業団体が行っていくことが地域教育力の再生につながり、地域の経済の発展につながっていく。そのために、会津地方には17市町村があるが、平成20年度には他の地域でも開催が行われ、平成21年度以降は他の全国の商工業団体に広めていき、未来の子ども達の能力を育成し、将来的な地方経済の発展を目指していく。

